三好公園 樹木対策基本計画 (案)

令和2年12月

みよし市



目 次

目 的	1
三好公園トリムコース(散策路)沿いの樹林	1
三好池周りのサクラ並木 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
三好池周りで見られる主なサクラ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
今回対象とする場所	3
三好公園樹木対策基本計画(案)の概要	5
樹林の手入れについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
A 桜並木ゾーン ······	8
B 桜と松ゾーン2	Ο
C 桜の入替えゾーン2	5
D 桜と里山林ゾーン ·····2	9
E 桜と深緑ゾーン ·····3	5
F 低木緑化ゾーン ·····3	9
参考資料4	2

月 的

三好池は昭和30年代に築造され、約60年が経過しています。三好池周辺の樹木は、これまで倒木や危険木を取り除くなど、必要最小限の管理により保全を行ってきました。そのため、近年では、成長している樹木はありますが、日当たりの悪い環境に変化しており、必ずしも樹木の生育に適した状況となっていません。また、植樹されている桜なども樹木に覆われることで、日当たりが悪く加齢により衰弱しつつあります。

このような状況を踏まえ、桜の名所として親しまれ、自然の変遷や季節の移ろいを感じる ことができる公園として樹木対策基本計画を策定します。

今回、三好公園をこれまで以上に魅力のあるものとするため、三好池周りを明るくする保全や植樹を実施した樹木活用に関する樹木対策基本計画の案がまとまりましたので、パブリックコメント制度による意見の募集を行います。

三好公園トリムコース(散策路)沿いの樹林

三好公園トリムコース沿いの樹林は、大きく成長した木(高木)をみると、サクラや紅葉する樹木(落葉樹)が中心となっています。しかし、その高木の下の木(中低木)は、落葉しない樹木(常緑樹)が繁茂しており、林内は常に暗い状態となっています。地面に多くの光が届かないと、新たに芽生える植物は限られてしまい、単調な林に変化していきます。

また、林内に落葉樹の中低木は少なく、健全な世代交代が難しい状況となっています。今 ある高木が老齢で枯れてしまうと、常緑樹の中低木が育ち、季節感の乏しい樹林に変化して いくものと考えられます。





晩秋に撮影した写真です。

高木は紅葉しているコナラなどの落葉樹や、既に葉を落としたサクラ類です。その下には、常緑樹が繁茂しています。今ある高木が老齢で枯れてしまうと、季節変化の少ない常緑樹が成長していくものと考えられます。

三好池周りのサクラ並木

三好池周辺の樹木が成長するに伴い、植樹されたサクラは、光や養分といった資源を周りの樹木と競争する関係になりました。また、サクラは老齢期のものが多く、全般的に衰弱傾向にあると言えます。下の写真を見る限り、サクラの花付きも悪くなっている印象を受けます。



1985 (昭和60) 年頃



2005 (平成 17) 年頃



2018 (平成 30) 年

三好池周りで見られる主なサクラ

三好公園トリムコース沿いには、多様なサクラが植樹・生育しています。 代表的なサクラの特徴は、以下のとおりです。

ソメイヨシノ



- 栽培品種です。
- ・三好公園トリムコース沿いに広く植樹されています。
- ・寿命は短いとされています。樹齢30~40年が最盛期。
- 開花期は3~4月頃。
- ・葉が開く前に花だけが咲きます。
- ・樹高は 10~15m程度に成長します。

ヤマザクラ



- ・野生種です。植栽されることもあります。
- ・トリムコースの陸側の樹林で広く見られる傾向があります。
- 寿命は長いとされています。
- ・開花期は3~4月頃、ソメイヨシノよりは遅いです。
- ・花が咲く時に葉も一緒に開きます。
- ・樹高は 15~25mにも成長します。

シキザクラ



- 栽培品種です。
- ・三好公園では、少ないですが植樹されています。
- ・寿命は雑種のため、短いとされています。
- ・開花期は年2回、春と秋に咲きます。
- ・樹高は、あまり大きくなりません。

今回対象とする場所

今回の三好公園樹木対策基本計画(案)は、三好公園トリムコース(散策路)沿いの樹林の一部を対象としています。

次の頁に、三好池周辺の土地利用区分図を作成しました。

三好池は居住地や果樹園・畑地などで囲まれているものの、北、東、南側に樹林地が広がっています。その樹林地は、季節感のある落葉広葉樹林が最も多く、鎮守の森のような常緑広葉樹林や、マツ、スギ、ヒノキといった針葉樹林も点在しています。北側には、竹林も広くみられます。

今回の計画の対象とする範囲は、次頁の白線で示した三好公園トリムコース(散策路)から、池側は水際までを想定しています。陸側(堤防の反対側)は、トリムコースから樹林内へ5m程度までを想定しています。

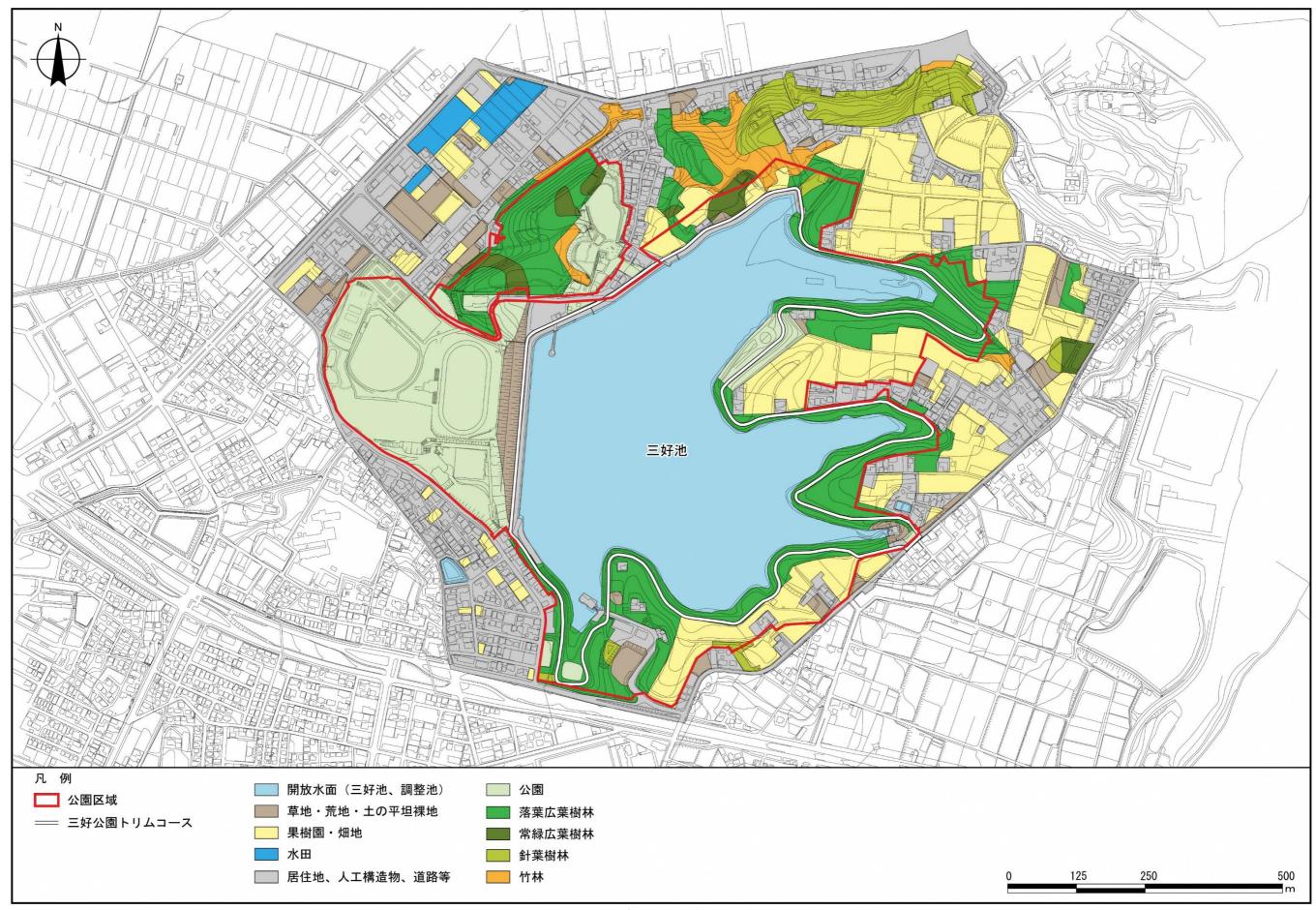


図 三好池周辺の土地利用区分

三好公園樹木対策基本計画(案)の概要

三好公園樹木対策基本計画(案)は、三好公園トリムコース(散策路)を50mずつに区切り、各区間のサクラや樹林の生育状況、さらには土地利用の状況などを現場で確認して、以下の7つにゾーニングしました。そのゾーニング毎に、桜の魅力や樹林の季節感を高めるため、樹林の手入れの方針案を短期的・中期的・長期的な目線から提示しました。 ゾーニング図は、次々頁に掲載しました。

三好公園樹木対策基本計画(案)のゾーニング

略号	ゾーン名	基本計画
Α	桜並木	・サクラの花見の場所として、更なる魅力向上を図っていく。
В	桜と松	・立派なサクラと懐かしいマツ林の再生を目指していく。
С	桜の入替え	・民地に配慮しながら、サクラの入替えを行っていく。
D	桜と里山林	・親しみやすい里山林を目指していく。
E	桜と深緑	・緑濃い常緑樹林への移り変わりを見守っていく。
F	低木緑化	・民地に配慮しながら、低木の花木による修景を検討していく。
G	護岸	・池側が護岸で樹林が少ないため、検討対象外。

樹林の手入れについて

サクラを元気にさせるためには、悪い部位を直す治療と、悪い環境を改善する方法が考えられます。

治療とは、樹木の専門家による診断を経て、被害(病害虫、枯れ)のある枝や幹を除去して薬を塗ったり、幹の空洞を塞いだり、土壌を改良したりする方法が挙げられます。

悪い環境を改善する方法とは、光や養分といった資源を奪い合うサクラ周りの中低木を除去することが挙げられます。これが樹林の手入れとなります。

三好公園トリムコース沿いでは、冬にも落葉しない常緑の中低木が広く見られるようになってきました。この中低木を取り除くことは、サクラを元気にさせる効果のみでなく、明るい林に変化することで、ツツジやスミレなどの季節感のある多様な植物が芽生えてくることが期待されています。

なお、竹や二セアカシア(別名ハリエンジュ、外来の樹木)は、大きくなる成長速度や周辺に広がるスピードが高い樹木です。サクラや落葉広葉樹を覆って劣悪な環境に変化させてしまう可能性が高いため、優先的に除去することが望まれます。

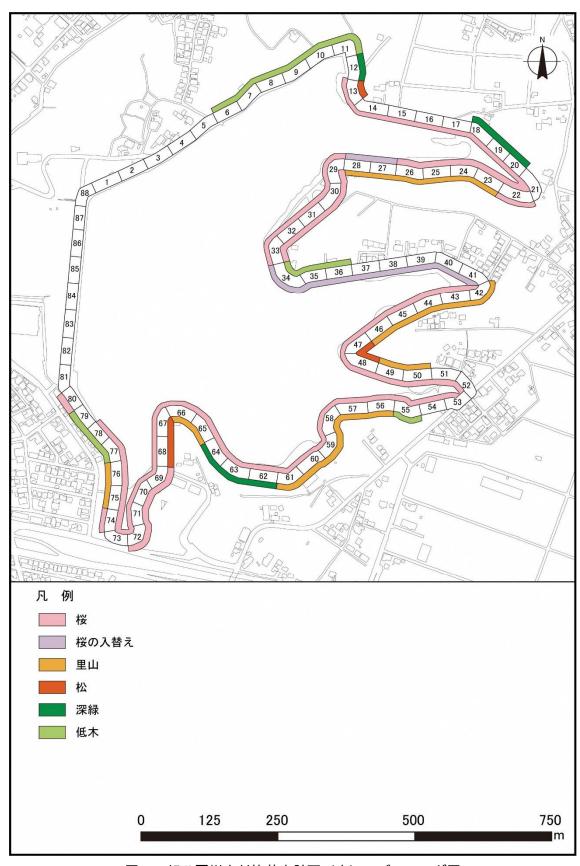


図 三好公園樹木対策基本計画(案)のゾーニング図

表 ゾーニングと説明ページの一覧

Na		, 2	=+ \u/ =	前頁図ゾー	ニング要素	桜の	有無
No.		ゾーン名	該当頁	池側	陸側	池側	陸側
1	G	護岸	-	-	-		
2	G	護岸	-	-	-		0
3	G	護岸	-	i	-		0
4	G	護岸	-	-	-		0
5	G	護岸	-	-	-		
6	F	低木緑化ゾーン	41	-	低木		
7	F	低木緑化ゾーン	41	-	低木		
8	F	低木緑化ゾーン	41	-	低木		
9	F	低木緑化ゾーン	41	=	低木		
10	F	低木緑化ゾーン	41	-	低木		0
11	F	低木緑化ゾーン	41	=	低木		
12	F	低木緑化ゾーン	41	=	深緑		
13	В	桜と松ゾーン	22	桜	松	0	
14	В	桜と松ゾーン	22	桜	-	0	
15	А	桜並木ゾーン	10	桜	-	0	0
16	Α	桜並木ゾーン	10	桜	-	0	0
17	Ε	桜と深緑ゾーン	37	桜	-	0	
18	Ε	桜と深緑ゾーン	37	桜	深緑	0	
19	Ε	桜と深緑ゾーン	37	桜	深緑	0	
20	Ε	桜と深緑ゾーン	37	桜	深緑	0	
21	Α	桜並木ゾーン	11	桜	-	0	
22	Α	桜並木ゾーン	11	桜	桜	0	0
23	D	桜と里山林ゾーン	31	桜	里山	0	0
24	D	桜と里山林ゾーン	31	桜	里山	0	0
25	D	桜と里山林ゾーン	31	桜	里山	0	0
26	D	桜と里山林ゾーン	31	桜	里山	0	0
27	С	桜の入替えゾーン	27	桜の入替え	里山	0	0
28		桜の入替えゾーン	27	桜の入替え	里山	0	0
29		桜並木ゾーン	12	桜	桜	0	0
30		桜並木ゾーン	12	桜	桜	0	0
31		桜並木ゾーン	12	桜	桜	0	0
32		桜並木ゾーン	12	桜	桜	0	0
33		桜並木ゾーン	12	桜	桜	0	0
34		桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	低木	0	0
35		桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	低木	0	
36		桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	低木	0	
37	_	桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	-	0	
38		桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	-	0	
39		桜の入替えゾーン		桜の入替え		0	
40		桜の入替えゾーン	28	桜の入替え	=	0	
41		桜の入替えゾーン 桜と里山林ゾーン	32	桜の入替え	里山	0	
43		桜と里山林ゾーン	32	世 桜	里山	0	0
44	U	桜と里山林ゾーン	32	桜	里山	0	0

No	V 3.47	該当頁	前頁図ゾー	桜の	有無		
No.	ゾーン名	談ヨ貝	池側	陸側	池側	陸側	
45	D 桜と里山林ゾーン	32	桜	里山	0	0	
46	D 桜と里山林ゾーン	32	桜	里山	0	0	
47	B 桜と松ゾーン	23	桜	松	0	0	
48	B 桜と松ゾーン	23	桜	松	0	0	
49	D 桜と里山林ゾーン	33	桜	里山	0	0	
50	D 桜と里山林ゾーン	33	桜	里山	0	0	
51	D 桜と里山林ゾーン	33	桜	-	0		
52	A 桜並木ゾーン	13	桜	-	0		
53	A 桜並木ゾーン	13	桜	-	0	0	
54	A 桜並木ゾーン	13	桜	-	0		
55	A 桜並木ゾーン	13	桜	低木	0		
56	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
57	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
58	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
59	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
60	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
61	D 桜と里山林ゾーン	34	桜	里山	0		
62	E 桜と深緑ゾーン	38	桜	深緑	0		
63	E 桜と深緑ゾーン	38	桜	深緑	0		
64	E 桜と深緑ゾーン	38	桜	深緑	0		
65	A 桜並木ゾーン	14	桜	里山	0		
66	A 桜並木ゾーン	14	桜	里山	0		
67	B 桜と松ゾーン	24	桜	松	0	0	
68	B 桜と松ゾーン	24	桜	松	0	0	
69	A 桜並木ゾーン	15	桜	桜	0	0	
70	A 桜並木ゾーン	15	桜	桜	0		
71	A 桜並木ゾーン	16	桜	桜	0	0	
72	A 桜並木ゾーン	16	桜	桜	0	0	
73	A 桜並木ゾーン	16	桜	-	0	0	
74	A 桜並木ゾーン	16	桜	桜	0	0	
75	A 桜並木ゾーン	17	桜	里山	0		
76	A 桜並木ゾーン	17	桜	里山	0		
77	A 桜並木ゾーン	18	桜	低木	0	0	
78	A 桜並木ゾーン	18	桜	低木	0	0	
79	A 桜並木ゾーン	18	=	低木		0	
80	A 桜並木ゾーン	19	-	桜		0	
81	G 護岸	-	-	-			
82	G 護岸	-	=	-			
83	G 護岸	-	-	-			
84	G 護岸	-	=	-			
85	G 護岸	-	=	=			
86	G 護岸	-	-	-			
87	G 護岸	-	=	-			
88	G 護岸	-	-	=			

A 桜並木ゾーン

樹木対策の基本計画

サクラの花見の場所として、更なる魅力向上を図っていく。

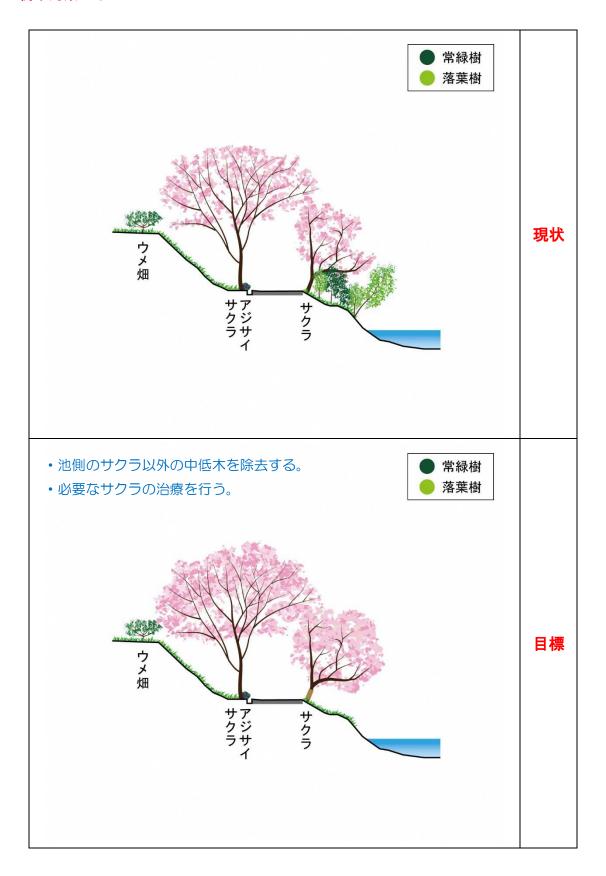




昭和60年頃の三好池の桜並木

No.15~No.16·····p 10
·
No.21~No.22····p 11
No.29~No.33·····p 12
No.52~No.55···· p 13
No.65~No.66···· p 14
No.69~No.70····p 15
No.71 ~ No.74 · · · · · · p 16
No.75~No.76·····p 17
No.77~No.79·····p 18
No.80 · · · · · p 19

樹木対策のイメージ

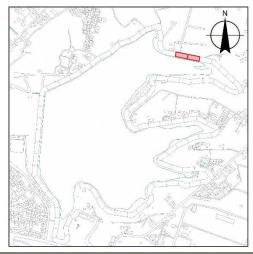


各区間の特徴と基本計画(案)

桜並木 (No.15~No.16)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラが道路両側から張り出しており、桜のトンネルが期待できる場所。
- ・池側は中低木が繁茂し、池への見通しは悪い。

樹林管理の基本計画(案)

- ・今あるサクラを養生し、次世代のサクラも植樹する。
- ・トリムコースからの見通しは、水面を今より見えるようにする。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。池側は、サクラ以外の中低木を除去する。

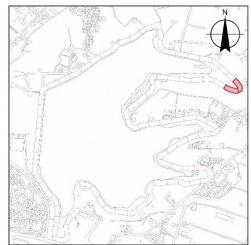
中期:サクラの被害状況を踏まえて、必要な治療を行う。

長期:桜並木の拡大(植樹)や陸側の樹林管理の在り方を検討する。

桜並木 (No.21~No.22)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にある。
- ・サクラは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・池側のソメイヨシノは、日照条件は良いものの衰弱傾向にある。
- ・陸側には、工場と竹が混じる落葉樹林が成立している。
- ・三好池の水面から離れた入り江部に位置し、池側にはハナショウブが植栽されている。

樹林管理の基本計画(案)

・既存のハナショウブ花園との一体感を考慮しながら、今あるサクラを養生する。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。陸側において、繁茂する竹を除去する。

中期:サクラの被害状況を踏まえ必要な治療、もしくはサクラの入替えを行う。

長期:桜並木の拡大や陸側の樹林管理の在り方を検討する。

備考

植栽されたハナショウブ。

継続的に下草除草が行われている。今あるハナショウブを活用し、トリムコース利用者が花を楽しむフィールドとしての利用などが考えられる。

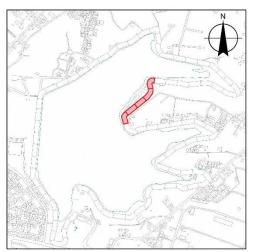
ハナショウブ花園の養生・拡大に向けて、関係機関 の連携が望まれる。



桜並木 (No.29~No.33)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にあり、陸側は3列に植栽されている。
- ・池側は公園が整備されている。

樹林管理の基本計画 (案)

- ・園地としての一体感を考慮しながら、今あるサクラを養生する。
- ・園地の魅力を更に向上させる。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

池側の下草除草を手厚くし、園地の広がりを持たせる。

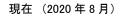
中期:サクラの被害状況を踏まえて、必要な治療を行う。

長期:桜並木の拡大や陸側の樹林管理の在り方を検討する。

備考

No.33 区間は、下草除草で池側の見通しを良くすれば、園地としての広がりが出てくる。





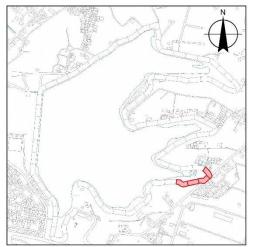


過去 (2007年11月)

桜並木 (No.52~No.55)

代表的な状況写真





特徵

- ・3種類のサクラが植栽され、生育状態は問題ない。
- ・ベンチがあり、休憩場所や花見の場所として利用される。

樹林管理の基本計画 (案)

既存の休憩施設の中心木として、今あるサクラを保全する。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。 中期:これまで通りの維持管理を継続する。

長期: 桜並木の拡大や公園整備の在り方を検討する。

備考

サクラのビュースポット(No.52~No.53)。

少し離れた場所から、サクラ並木の全体を眺めることができる地点。

手前にある入り江の草地を整備することで、より鑑 賞機能が高まることが期待される。

休憩場所としての有力な整備候補地(No.54~No.55)。 ベンチが池向きにあり(写真白丸)、芝地が整備されている。また、背後にはトイレが設置されており、 未利用地もある。

池側に発達した樹林を開放的な環境にすることで、 休憩や眺望を楽しむことができると期待される。





桜並木 (No.65~No.66)

代表的な状況写真





特徴

- ・池側はサクラ生育、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側はサクラ未確認、常緑樹が多い。
- ・周辺樹の樹高が低いことから、日照条件を改善しやすい。
- ・サクラの樹高も低いことから、治療しやすい。

樹林管理の基本計画(案)

・サクラを養生させる条件が良いため、元気な桜並木を目指す。

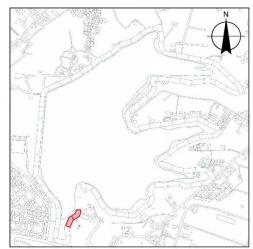
短期:池側において、サクラ以外の中低木を除去する。 中期:サクラの被害状況を踏まえ、必要な治療を行う。

長期:桜並木の拡大や陸側の樹林管理の在り方を検討する。

桜並木 (No.69~No.70)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にある。
- ・サクラは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・林内は常緑中低木が繁茂している。

樹林管理の基本計画(案)

・公園の施設整備計画のエリアに含まれることから、治療や植樹を行い、元気な桜並木を目指す。

短期:サクラ以外の低木を除去し、必要に応じてサクラの治療や植樹を行う。

中期:陸側において、樹林内でも衰えにくい「ヤマザクラ」や「カエデ類」を植樹する。

長期:治療や植樹の状況を踏まえ、陸側の樹林管理の在り方を検討する。

桜並木 (No.71~No.74)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にある。
- ・池側のサクラは生育状態が悪い。
- ・陸側は国道 153 号豊田西バイパスの擁壁や、常緑中低木が繁茂する樹林となっている。
- ・三好池の水面から離れた入り江部に位置し、ベンチのある草地が広がっている。
- 一部に竹や外来種(ニセアカシア)が生育している。

樹林管理の基本計画(案)

- ・公園の施設整備計画のエリアに含まれることから、設計思想を踏まえた環境創造を進める。
- 背後の擁壁で成長している低木を除去して、明るい環境にする。
- ・公園の施設整備の拠点として、花木探勝機能を高める。
- ・既存樹林の高木(サクラや在来樹木)は、基本的には保全する。一方、竹や外来樹(ニセア カシア)は全面的に除去する。

短期:必要に応じてサクラの治療や植樹を行う。竹や外来樹(ニセアカシア)を除去する。

公園整備の方向性や管理方針を検討する。

中期:公園の利用状況を踏まえて、問題点を確認し必要な対策を施す。

長期:周辺の樹林地の在り方を検討する。

備考

10 年ほど前の環境

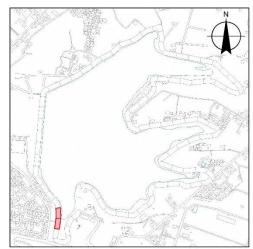




桜並木 (No.75~No.76)

代表的な状況写真





特徴

- ・池側はサクラ生育、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側は第8駐車場の池側斜面でサクラ未確認、落葉樹が多く林内は除草管理されている。

樹林管理の基本計画(案)

・公園の施設整備計画のエリアに含まれることから、治療や植樹を行い、元気な桜並木を目指す。

短期:池側において、繁茂する竹や外来樹(ニセアカシア)を除去する。

池側において、サクラ以外の低木を除去し、必要に応じてサクラの治療や植樹を行う。

中期:陸側において、樹林内でも衰えにくい「ヤマザクラ」や「カエデ類」を植樹する。

長期:治療や植樹の状況を踏まえ、陸側の樹林管理の在り方を検討する。

備考

第8駐車場の池側斜面の写真。

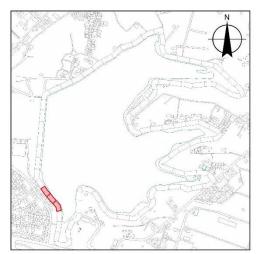
林内は定期的に管理が行われているため、明るい印 象を受ける。



桜並木 (No.77~No.79)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にある。
- ・サクラは、全般的に老木で被害も認められる。
- ・民地付近であり、倒木、落葉、病虫害などへの配慮が特に必要である。
- ・散策路脇 (陸側) には高低差 (法面) があり、近くに高木が生育している。倒木対策や法面を整形する処理が必要と考えられる。

樹林管理の基本計画(案)

- ・サクラを保全しながら、散策路脇を保護する工事を進めていく。
- ・法面保護の整備工事にあわせて、低木の花木への樹種転換を図っていく。
- 高木は植樹しない。

短期:必要に応じてサクラの治療や植樹を行う。法面保護の方向性や管理方針を検討する。

中期:公園の利用状況を踏まえて、問題点を確認し必要な対策を施す。

長期:池側の樹林地の在り方を検討する。

備考

現況写真

法面を整備し、保 護することが望まれ る。





桜並木 (No.80)

代表的な状況写真





特徴

- ・樹林帯への入口として、手入れする意義の高い場所。
- ・池側は護岸、陸側でサクラ老木が生育している。
- サクラに大きな問題はない。

樹林管理の基本計画(案)

・樹林帯の入口として、立派なサクラ老木を見せる。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

中期:サクラの被害状況を踏まえて、必要な治療を行う。

長期: 今あるサクラの後継木のあり方を検討する。

B 桜と松ゾーン

樹木対策の基本計画

立派なサクラと懐かしいマツ林の再生を目指していく。



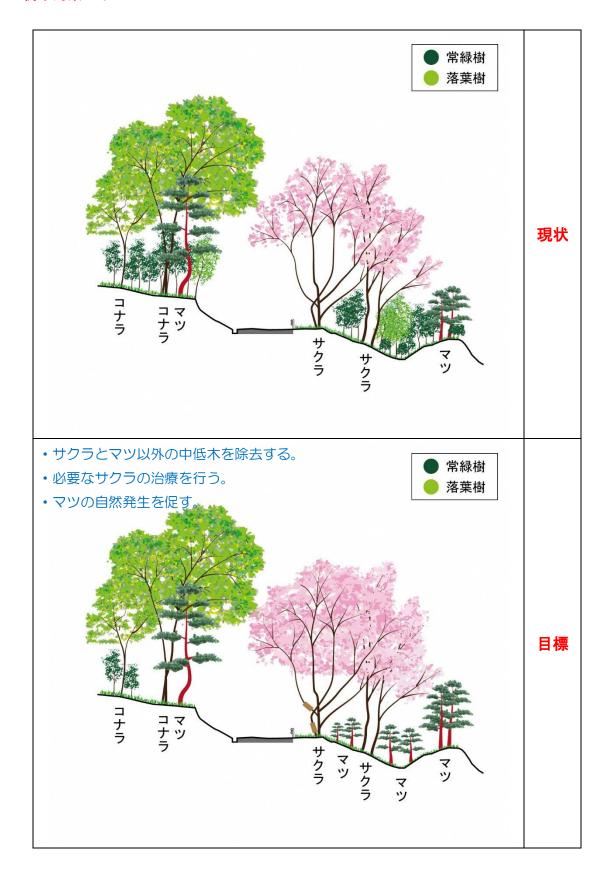
三好池カヌーセンター付近で見られるマツ高木林



三好池の水際に生育するマツ

No.13∼No.14····· p	22
No.47~No.48·····	23
No.67~No.68·····	24

樹木対策のイメージ



各区間の特徴と基本計画 (案)

桜と松 (No.13~No.14)

代表的な状況写真





特徴

- ・樹林帯への入口として、手入れする意義の高い場所。
- ・池側は、サクラの高木とマツの中低木が生育している。
- ・陸側は、マツの発芽(実生木)がみられる。
- ・見通しが悪いため、視野を向上させる対策も求められる。

樹林管理の基本計画(案)

- 今あるサクラを養生し、次世代のサクラも植樹する。
- ・今あるマツを養生し、植樹も検討する。

短期: サクラとマツ以外の低木を全面的に除去する。

中期:サクラの被害状況を踏まえて、必要な治療を行う。

マツの自然発生状況を踏まえて、植樹の必要性を検討する。

長期:サクラとマツ以外の高木類の在り方を検討する。

備考

トリムコース沿いで見られたマツの自然発芽。 マツは、日当たりが良く裸地的な環境であれば、自然 に発芽・成長するものが多い。



桜と松 (No.47~No.48)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にあるが、被害の大きい木が多い。
- マツは池側で見られる。
- ・日当たりが良く、土壌養分の少ない痩せ地であり、マツの生育に適している。

樹林管理の基本計画(案)

- ・今あるサクラを養生し、次世代のサクラも植樹する。
- ・マツは低木が散在している。今あるマツを養生し、植樹も行う。

短期:池側は、サクラとマツ以外の中低木を全面的に除去する。

中期:マツの自然発芽や成長状況を踏まえて、必要な植樹を行う。

長期:陸側の樹林管理の在り方を検討する。

備考

三好池の水際に生育するマツ。

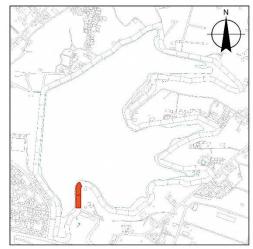
水際に生育するマツ以外の中低木を除去することで、マツの成長・拡大が期待される。



桜と松 (No.67~No.68)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側にあるが、被害の大きい木が多い。
- ・マツは道路両側で見られる。陸側には高木が1本生育している。
- ・日当たりが良く、土壌養分の少ない痩せ地であり、マツの生育に適している。

樹林管理の基本計画(案)

- ・今あるサクラを養生し、次世代のサクラも植樹する。
- ・マツは低木が散在している。今あるマツを養生し、植樹も行う。

短期:池側は、サクラとマツ以外の中低木を全面的に除去する。

中期:マツの自然発芽や成長状況を踏まえて、必要な植樹を行う。

長期:陸側の樹林管理の在り方を検討する。

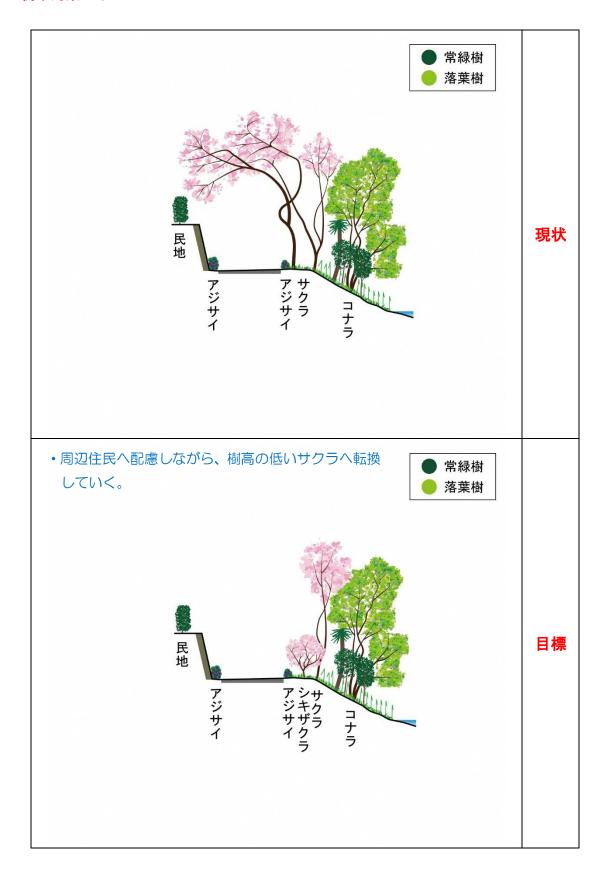
C 桜の入替えゾーン

樹木対策の基本計画

民地に配慮しながら、サクラの入替えを行っていく。

No.27∼No.28·····	• • • • • •	····· p 27
No.34~No.41·····		···· p 28

樹木対策のイメージ

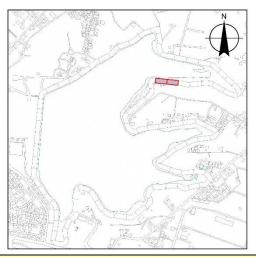


各区間の特徴と基本計画(案)

桜の入替え (No.27~No.28)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側で見られる。
- ・サクラは、全般的に老木で被害も認められる。
- ・民地付近であり、倒木、落葉、病虫害などへの配慮が特に必要である。

樹林管理の基本計画(案)

・衰退傾向にあるソメイヨシノから、樹高の低いシキザクラなどへの転換を図っていく。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

中期:隣接する居住者への配慮した樹種転換の必要性を検討する。

長期:問題点を確認し、必要な対策を施す。

備考

豊田市小原のシキザクラ(観光地)。

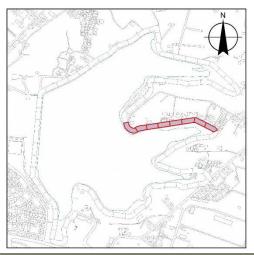
2019年11月16日に撮影したもので、シキザクラは春に加え、秋にも開花する。あまり大きくならないため、ソメイヨシノから樹種転換を図る際の有用樹種。



桜の入替え (No.34~No.41)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは、主に池側で見られる。全般的に老木で被害も認められる。
- ・民地付近であり、倒木、落葉、病虫害などへの配慮が特に必要である。

樹林管理の基本計画 (案)

- ・衰退傾向にあるソメイヨシノから、樹高の低いシキザクラなどへの転換を図っていく。
- ・池側には高木林が成立しており、将来的には方向性を検討する。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

No.34 区間で繁茂する外来種 (ニセアカシア) を除去する。

中期:隣接する居住者への配慮した樹種転換の必要性を検討する。

長期:問題点を確認し、必要な対策を施す。

備考

外来樹のニセアカシア(ハリエンジュ)

三好公園トリムコース沿いでは、ニセアカシアが繁茂して樹林となっている箇所が点在する。繁殖力が旺盛なため、早めの駆除が求められる。



D 桜と里山林ゾーン

樹木対策の基本計画

親しみやすい里山林を目指していく。



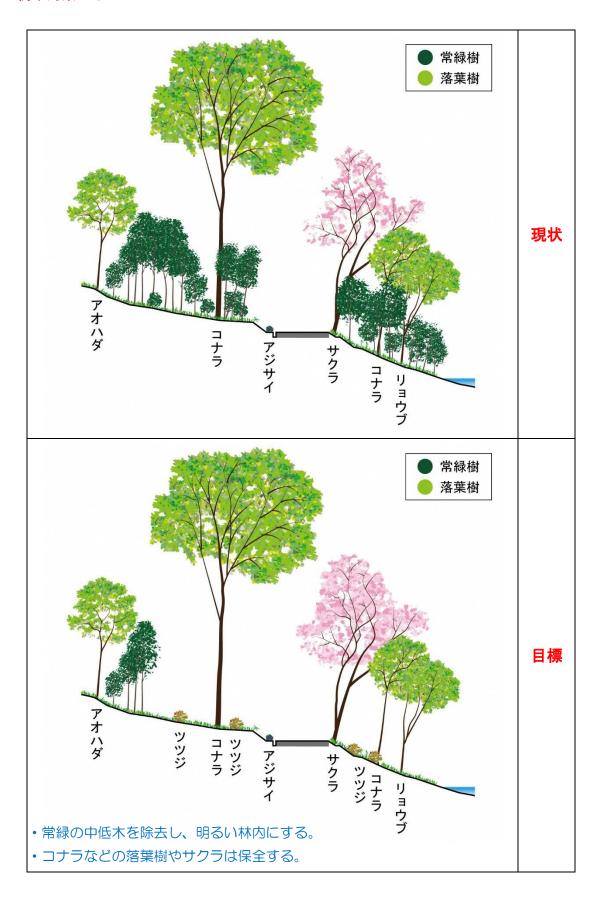
落葉樹アベマキの紅葉



落葉樹コナラのどんぐり

No.23~No.26·····p	31
$N_0.42 \sim N_0.46 \cdots p$	32
$N_0.49 \sim N_0.51 \cdots p$	33
No.56~No.61····	34

樹木対策のイメージ



各区間の特徴と基本計画 (案)

桜と里山林 (No.23~No.26)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側で見られる。
- ・池側のソメイヨシノは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側には成熟した落葉樹林帯が成立している。一部にサクラの大木群が見られる。
- ・林内は常緑中低木が繁茂している。

樹林管理の基本計画 (案)

- ・里山によく自生し寿命の長いヤマザクラは保全し、自然拡大を促す。
- ・成熟した今のコナラ林を土台に、親しみやすい里山林を目指す。

短期: 常緑中低木を広く除去し、明るい林内環境にする。明るい林床を好むツツジ類などの自 然発芽・成長を促す。

中期:林内で発芽・成長した若木の状況を踏まえ、ツツジ、カエデの植樹を検討する。 長期:今ある樹林の林内を変える試みであるため、問題点を確認し必要な対策を施す。

備考

三好公園トリムコース沿いの樹林環境。

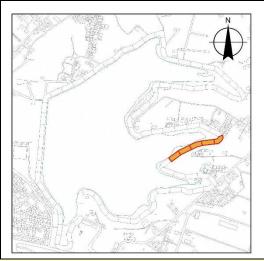
目の高さまで常緑樹が繁茂しており、池への見通しは悪い。また、道沿いはうっそうとしているため、触れ合いや、親しみにくい環境と言える。



桜と里山林 (No.42~No.46)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側で見られる。
- ・池側のソメイヨシノは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側には成熟した落葉樹林帯が成立している。一部にサクラの大木群が見られる。
- ・林内は常緑中低木が繁茂している。

樹林管理の基本計画 (案)

- ・里山によく自生し寿命の長いヤマザクラは保全し、自然拡大を促す。
- ・成熟した今のコナラ林を土台に、親しみやすい里山林を目指す。

短期: 常緑中低木を広く除去し、明るい林内環境にする。明るい林床を好むツツジ類などの自 然発芽・成長を促す。

No.42 区間で繁茂する外来種 (ニセアカシア) を除去する。

中期:林内で発芽・成長した若木の状況を踏まえ、ツツジ、カエデの植樹を検討する。 長期:今ある樹林の林内を変える試みであるため、問題点を確認し必要な対策を施す。

備考

三好公園トリムコース沿いの林内の様子。

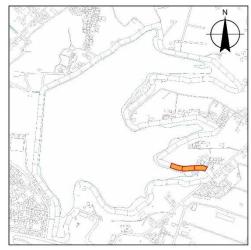
幹の細い樹木が多数生育しており、林内の地面は暗 く、生えている植物は少ない印象を受ける。



桜と里山林 (No.49~No.51)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは道路両側で見られる。
- ・池側のソメイヨシノは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側には成熟した落葉樹林帯が成立している。一部にサクラの大木群がみられる。
- ・林内は常緑中低木が繁茂している。

樹林管理の基本計画 (案)

- ・里山によく自生し寿命の長いヤマザクラは保全し、自然拡大を促す。
- ・成熟した今のコナラ林を土台に、親しみやすい里山林を目指す。

短期:常緑中低木を広く除去し、明るい林内環境にする。明るい林床を好むツツジ類などの自

然発芽・成長を促す。

中期:林内で発芽・成長した若木の状況を踏まえ、ツツジ、カエデの植樹を検討する。

長期:今ある樹林の林内を変える試みであるため、問題点を確認し必要な対策を施す。

備考

湿地の創出が期待される水際。

池側には継続的に下草除草が行われている草地が 広がっており、水際には湿った場所を好む珍しい植物 が生育し得る環境も認められる。これらの環境の維 持・改善に向けて、関係機関の連携が望まれる。



桜と里山林 (No.56~No.61)

代表的な状況写真





特徴

- ・サクラは池側で見られる。ソメイヨシノは、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側は果樹畑との境界林、カキ畑、草地等の多様な環境が見られる。林内は常緑中低木が繁茂している。

樹林管理の基本計画 (案)

・今後の推移を見守りながら、親しみやすい里山林を目指す。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

中期:隣接する土地利用者に配慮した樹林管理の必要性を検討する。

長期:問題点を確認し、必要な対策を施す。

備考

身近な草地の有効活用(No.59)。

樹林帯の中に平坦な草地が広がっている。草地環境 が減少している現在、三好池周りの自然環境の多様性 を高めている。

子供たちが昆虫採集を楽しむフィールドとしての 利用などが考えられる。

身近な樹林の有効活用(No.60)。

池側にまとまりのある平坦地があり、落葉樹林が成立している。 林内にはヤマツツジが生育している。

一般の方が自然の樹林と触れ合うフィールドとしての利用などが考えられる。





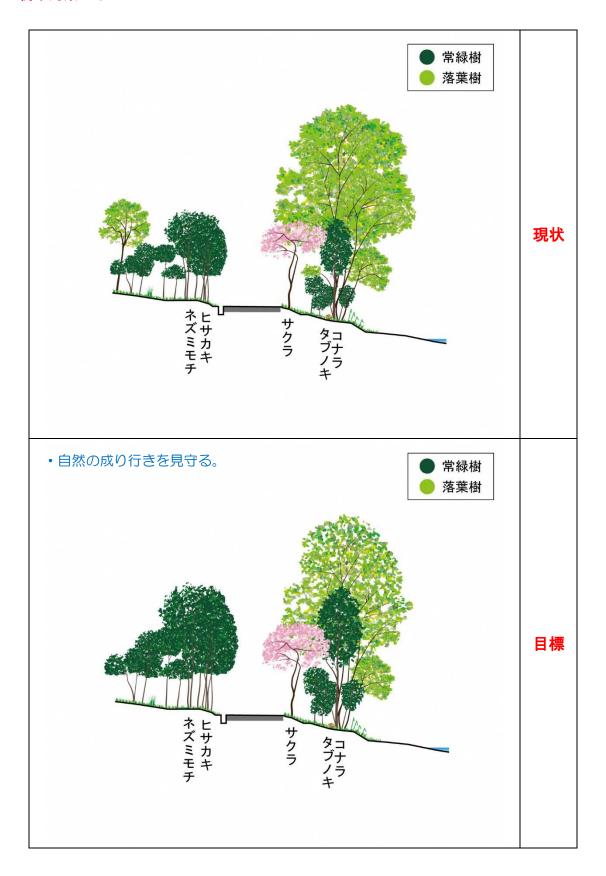
E 桜と深緑ゾーン

樹木対策の基本計画

緑濃い常緑樹林への移り変わりを見守っていく。

No.17~No.20···	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	р	37
No.62~No.64···																					a	38

樹木対策のイメージ

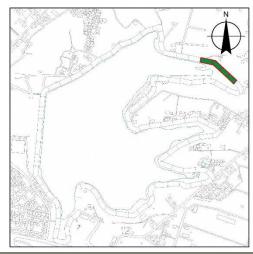


各区間の特徴と基本計画 (案)

桜と深緑 (No.17~No.20)

代表的な状況写真





特徴

- ・池側はサクラ生育、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側はサクラ未確認、常緑樹が多い。

樹林管理の基本計画(案)

・樹林は、自然の成り行きに任せる。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

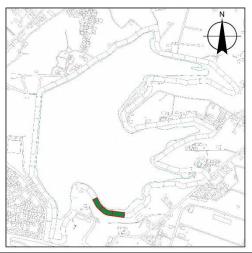
中期:同上長期:同上

※温暖な地域の樹林では、一般的に人の手が入らないと、落葉樹林(秋に紅葉・冬に落葉する里山的な林)から常緑樹林(冬でも緑の社寺林のような林)に次第に変化していくとされています。

桜と深緑 (No.62~No.64)

代表的な状況写真





特徴

- ・池側はサクラ生育、周辺の樹木に押され生育状態は悪い。
- ・陸側はサクラ未確認、常緑樹が多い。

樹林管理の基本計画(案)

・樹林は、自然の成り行きに任せる。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

中期:同上 長期:同上

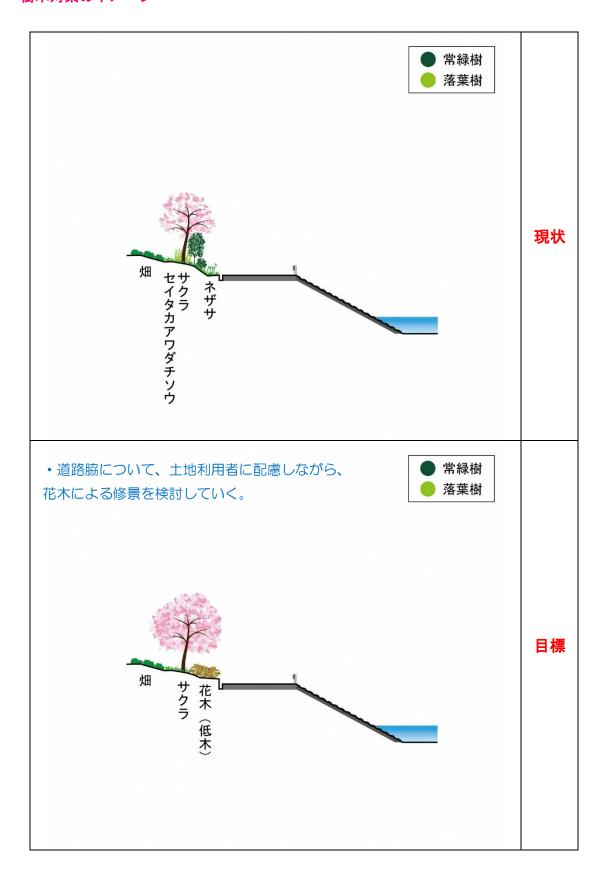
F 低木緑化ゾーン

樹木対策の基本計画

民地に配慮しながら、低木の花木による修景を検討していく。

No.6~No.12·····p41

樹木対策のイメージ



各区間の特徴と基本計画 (案)

低木緑化 (No.6~No.12)

代表的な状況写真





特徴

- ・池側は護岸、サクラは陸側で点在する程度である。
- ・陸側は果樹畑、畑、常緑樹林、落葉樹林、スギ植林、宅地等の多様な環境が見られ、地域の 人や公園利用者の往来が多い。
- 道路幅が広く、陸側の道路脇では、やぶ状となった環境も見られる。

樹林管理の基本計画(案)

- ・土地利用者に配慮しながら、公園としての修景機能を高めていく。
- ・低木の花木を植栽することを検討し、高木は基本的に植樹しない。

短期:これまで通りの維持管理を継続する。

中期:隣接する土地利用者に配慮した樹林管理の必要性を検討する。

長期:問題点を確認し、必要な対策を施す。

参考資料

2019 年度の樹木診断結果の概要

昨年度(2019年度)には、主に三好公園トリムコース沿いの代表的な樹木について、専門家による樹木診断を行っております。対象樹木は20種60本で、2007年度に樹木診断された41本(J151~J250)と、新たな19本(新規01~新規20)です。樹木診断の結果、60本のうち2本が危険、25本が処置必要と判定されました。2019年度の樹木診断結果の一覧表と位置図を以下に示します。

表 2019 年度の樹木診断結果の一覧表 (1/2)

	衣 2019 年度の倒不診断結果の一見衣(I/2)											
No.	樹木No.	樹種名	総合判定	理由	望まれる処置 内容							
1	J174	コナラ	D 危険	病害対策	こぶ病が激発している。 他樹への感染を防ぐために伐採が妥当である。							
2	J197	ソメイヨシノ	D 危険	歩行者の安全対策	回復の見込みなし。 枯れた部分が多いため伐採が妥当である。							
3	J151	コナラ	C 処置必要	歩行者の安全対策	枯枝、かかり枝の発生が複数みられ、樹冠下に歩行者も多いため危険である。除去を要する。							
4	新規04	ソメイヨシノ	C 処置必要	通行車両の安全対策	車道上の枝に車両接触のおそれがある。切除を要する。							
5	J156	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	枯枝の発生が複数みられ、樹冠下に歩行者も多いため危険である。 除去を要する。							
6	J162	クリ	C 処置必要	歩行者の安全対策	東側上部に折損枝があり、除去を要する。							
7	J163	ソメイヨシノ	C 処置必要	病害対策	てんぐ巣病の処置を要する。							
8	J164	ソメイヨシノ	C 処置必要	病害対策	てんぐ巣病、こぶ病の処置を要する。							
9	J166	アベマキ	C 処置必要	歩行者の安全対策	歩道上の枯枝については除去を要する。							
10	J169	ソメイヨシノ	C 処置必要	病害対策	てんぐ巣病、こぶ病の処置を要する。							
11	J170	ヤマザクラ	C 処置必要	病害対策	てんぐ巣病、こぶ病の処置を要する。							
12	J172	ニセアカシア	C 処置必要	歩行者の安全対策	強風による枝折れも多く、特に歩道上の枯枝は危険である。 除去を要する。							
13	J183	ソメイヨシノ	C 処置必要	サクラの魅力向上	桜並木となっており、密度管理や施肥を要する。							
14	J190	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	衰弱した幹は付け根から切除したほうがよい。							
15	新規08	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	道路上に枯枝が発生しており、落枝事故発生のおそれがある。 除去を要する。							
16	J194	ソメイヨシノ	C 処置必要	病害対策	こぶ病が発生する枝がかなり多く、枯枝や衰退した枝も散見される。							
17	新規11	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	こぶ病も確認できる。 真ん中の幹の上部が枯れているので除去するとよい。							
18	J227	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	樹勢回復の見込みはなく、道路側に傾斜している。 伐採が望ましい。							
19	J225	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	道路側と池側に伸びた幹2本は、腐朽などにより切損のおそれがある。 根元からの切断が望ましい。							
20	新規14	ソメイヨシノ	C 処置必要	サクラの魅力向上	子実体がぴっしりと付着した池側の幹は切損のおそれがある。 つけ根で切除が望ましい。							
21	J224	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	衰弱、枯死部の切断を要する。							
22	新規15	ヤマザクラ	C 処置必要	歩行者の安全対策	根張りも悪く、傾斜も道路側に大きい。 伐採を視野に入れたほうがよい。							
23	J216	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	病害枝、衰弱枝は各所に見られる。 道路上部に衰退枝が多いため除去を要する。							
24	J215	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	危険な枯枝もあり、幹折れの可能性もある。 根元からの伐採が望ましい。							
25	J250	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	枯枝やこぶ病があるため切り下げが必要。							
26	J212	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	病害枝や衰退枝は落枝事故につながるおそれがあるため、除去を要する。							
27	新規20	ソメイヨシノ	C 処置必要	歩行者の安全対策	道路上の太枝枯れは落枝事故の可能性が高い。除去を要する。							

表 2019 年度の樹木診断結果の一覧表 (2/2)

No.	樹木No.	樹種名	総	合判定	望まれる処置
28	新規01	ソメイヨシノ	В	要観察	特になし
29	J152	シラカシ	В	要観察	η.
30	J154	ヤマザクラ	В	要観察	П
31	J157	ヒガンザクラ	В	要観察	Π .
32	J158	ヒガンザクラ	В	要観察	П
33	J168	ヤマザクラ	В	要観察	П
34	J179	ヤマザクラ	В	要観察	II .
35	新規05	ケヤキ	В	要観察	II .
36	新規06	ユリノキ	В	要観察	II .
37	新規07	コナラ	В	要観察	II .
38	J198	ソメイヨシノ	В	要観察	n .
39	新規10	ソメイヨシノ	В	要観察	п
40	新規12	エドヒガン	В	要観察	п
41	J209	シキザクラ	В	要観察	п
42	J237	ソメイヨシノ	В	要観察	ıı .
43	新規13	コナラ	В	要観察	п
44	J239	コナラ	В	要観察	п
45	J244	ソメイヨシノ	В	要観察	п
46	J245	ソメイヨシノ	В	要観察	п
47	新規18	アカマツ	В	要観察	п
48	J248	ヤマザクラ	В	要観察	n .
49	J213	ヒガンザクラ	В	要観察	п
50	新規03	イロハモミジ	Α	健全	п
51	新規02	トウカエデ	Α	健全	п
52	J173	イロハモミジ	Α	健全	п
53	J176	アオハダ	Α	健全	ıı .
54	J235	イロハモミジ	Α	健全	п
55	J226	アベマキ	Α	健全	п
56	J223	エノキ	Α	健全	п
57	J247	アベマキ	Α	健全	II .
58	新規19	ニワウルシ	Α	健全	II .
59	新規17	ナンキンハゼ	Α	健全	II .
60	新規16	クスノキ	Α	健全	II.

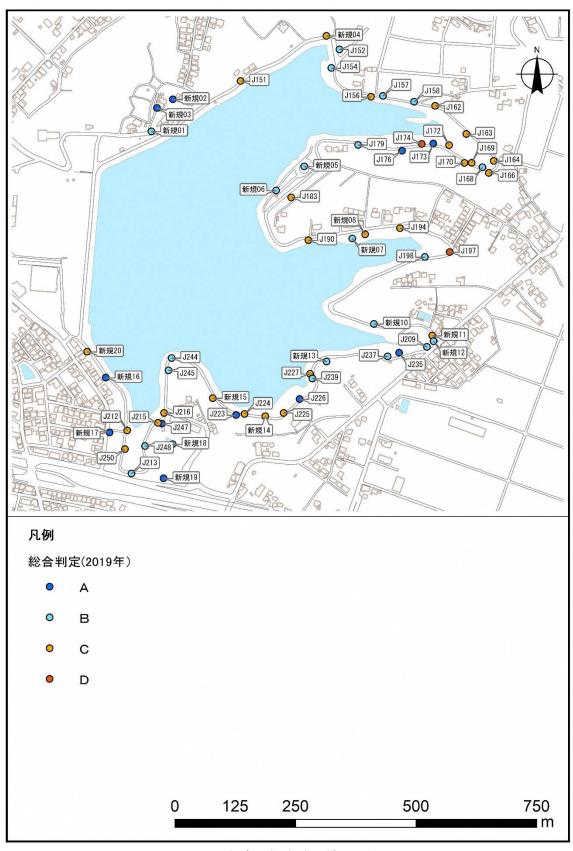


図 2019 年度の樹木診断結果の位置図